



龍城院集落協定 代表 しのだ あつし 信田 淳さん

ヤーコンで地域おこし 家庭菜園から全国発送へ

築上町の新たな野菜と言えば、メディアで紹介されることが多い「菊芋」を思い浮かべるかと思いますが、今回ご紹介するのは「ヤーコン」とその生産者「信田淳」さんです。

ヤーコンは、築上町で20年以上前から家庭菜園で栽培されていました。信田さんが栽培を始めたきっかけは、友人からもらったヤーコン。きんぴらに

して食べた時の、シャキシャキとした食感とほのかな甘みに一目惚れ。そこから約10年栽培を続けています。

ヤーコンは、南米アンデス原産の野菜で、日本ではマイナーな為、詳しい栽培記録などない中、独自に調べた結果、海拔400M～500Mの中山間地域が栽培に向いているということを見出し。信田さんの畑がある国見山の麓の地域「龍城院(りゅうじょういん)」がピッタリでした。

最初は、家庭用の栽培でしたが、徐々に作付面積が増え、現在は、築上町を代表するヤーコン生産者となった信田さん。記録がない中での栽培は、地域が最適でも試行錯誤の連続だったようです。現在のまるまるとしたヤーコンになるまでの約10年分の過程は、この短い文章の中には納まりませんが、全国にファンを増やしている自慢のヤーコンを知ってもらえたら嬉しいです。「まずは、キンピラで食べてみて！」とのことです。

(レポーター/うめといと)

●問い合わせ 信田淳さん ☎090-3463-8074

話題のお店

Keichiku Topic

えん 縁 いろり

古民家を活用した落ち着いた雰囲気のレストラン。店名の「縁」にはみなさんとご縁がありますようにという思いが込められているそう。その時々にあわせた一番美味しい旬の食材を使っており、料理を味わいながら移ろう四季を感じられます。おすすめは自家製の新鮮な野菜を中心に、肉・魚介を使った品数もボリュームもたっぷりの日替わりランチ。ドレッシングやデザートまで全て手作りというこだわりの味をぜひ味わってみてください。

(レポーター/ギョン)

Shop Information

[住] 上毛町大字下唐原304-3
[☎] 090-8629-4422
[営] ランチ 11:00～15:00
ディナー 18:00～22:00
[休] 毎週日曜、第2・第4土曜



編集後記

今回の特集は「春のお出かけノート」ということで、編集委員が選りすぐった、京築の春を体感できる自然スポットをご紹介。皆さんが応援団便りを片手に京築をめぐる日が早く訪れることを願っています。

(レポーター/ギョン)

京築応援団便り 豊のくにけいちく

「京築応援団」団員募集中！(入会無料)

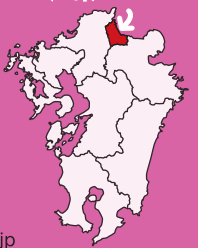
京築を応援するファンクラブに入りませんか？お申し込みは「京築まるごとナビ」から



発行：京築連帯アメニティ都市圏推進会議 事務局（福岡県広域地域振興課内）
企画編集：京築応援団会報編集委員会、豊の国海幸山幸ネット
問い合わせ：福岡県広域地域振興課／〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号
TEL.092-643-3178 / FAX.092-643-3164 / E-mail.koiki@pref.fukuoka.lg.jp



いーちく 京築ってここ



けいちく検定

お出かけしたい！春のスポットクイズ



効田町

【問1】一度は行ってみたい！パラグライダーの聖地はどこか？



行橋市

【問2】自然の地形を利用した空襲から軍用機を守る格納庫はどこか？



みどり町

【問3】平成筑豊鉄道が参道を通る神社はどこか？



築上町

【問4】お田植祭が行われている神社はどこか？



豊前市

【問5】嘯吹八幡神社の近くの道端にこの石像の名前はなんだ？



上毛町

【問6】トイレが新しくなった満開の桜の中で花見を楽しめる公園はどこか？



吉富町

【問7】勝海舟の剣術の師で天仲寺公園にて修行したといわれる剣豪はだれか？



春 vol.46

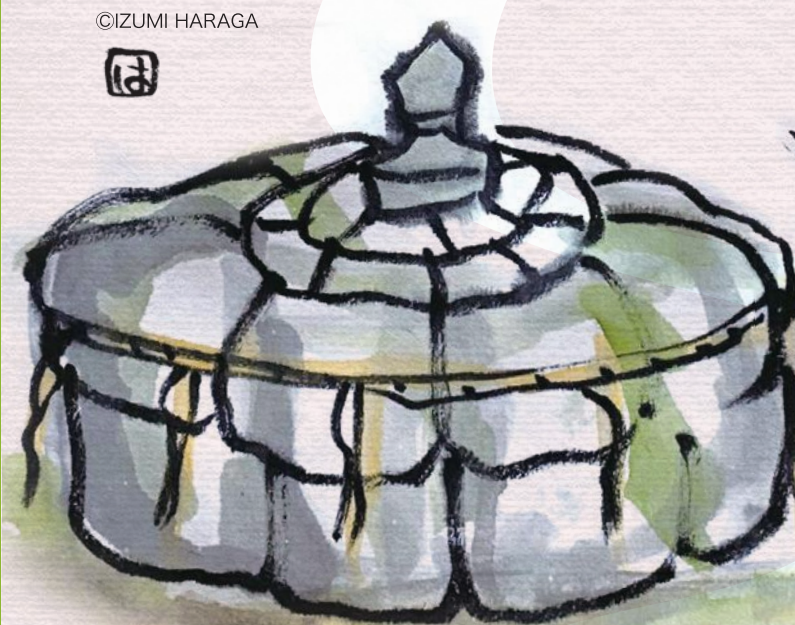
心をひとつに春の京築 自然を味わう 出会いの旅

豊のくにけいちく

Toyonokuni Keichiku 2022 April

©IZUMI HARAGA

は



「春のお出かけノート」を参考に、お弁当を買って歩いてみませんか？

護摩壇は直径約2m、高さ約80cmの大きさがあり、密教寺院や修験道には欠かせないものです。

松尾山で山登り

登山未経験でも楽しめる！

上毛町



▲二ノ鳥居から松尾山中宮へ



▲ゴールの上宮「松尾山三社神社」





枝川内 色とりどりの アジサイランド

平成13年(2001)、豊前市枝川内地区の地域おこしとして圃場整備で出来た法面を利用してアジサイを植えたのが、枝川内アジサイランドの始まりです。「小さなむらの大きな挑戦 日本一のアジサイランド」を合言葉に、地元の方々が毎年植栽しており、今では約16000株もの色とりどりのきれいなアジサイが並び一面に広がっています。毎年6月には「あじさい祭り」が開催され、地元でとれる新鮮な農産物や特産品の販売の他、写真コンテスト、子ども神楽、ち寄りくださいませ。(レポーター/モアナ)



枝川内 色とりどりの アジサイランド



[住] 枝川内アジサイランド(豊前市大字岩屋枝川内)
[問] 岩屋活性化センター [☎] 0979-88-2002

応援団ひろば

京築神楽LINEスタンプを販売しています♪

京築地域では30もの神楽団体が活動しており、京築神楽は地域の人々によって大切に守られ、子どもたちへと伝えられています。そんな京築神楽の魅力を、地域内外の方々に広く知ってもらうため、LINEスタンプを作成しました。170を超える応募作品の中から神楽公演来場者による投票と京築7市町の審査員による審査で選ばれた24作品をぜひ、LINEのトークにご利用ください。



「京築神楽LINEスタンプ」で検索

●問い合わせ先
京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局(福岡県広域地域振興課内)
[☎] 092-643-3178

霊山 蔵持山



蔵持山(犀川上高屋、標高478m)は、千年余の歴史を誇り、英彦山六峰の一つに数えられる修験の山として知られています。今では祈りや修行のために山に登る人は稀になりました。近年、町内上高屋から鑑畑に林道が整備され、登山は容易になりました。目印は二本の朱塗りの橋と蔵持山神社の鳥居。駐車スペースもあります。かつて山伏たちが「峰入り」とよんだ修行の山道をほんの少しだけ歩いてみませんか。上宮前を左手に進むと眼下に伊良原ダム、奥に英彦山の峰々、右手にある広場からは蓑島などを望めます。(レポーター/とらババ)

吉富町



天仲寺山は吉富町のほぼ中央に位置する小高い丘で、天仲寺公園として整備され、吉富の町を一望できる景色が広がります。四季折々の花に彩られる公園には、「幕末の剣聖」とうたわれ、勝海舟の剣術の師として有名な島田虎之助が、青年時代に心身ともに修行し、鍛え上げた場所としても知られています。さらに、中津藩主小笠原公三代の墓や豊前・築上地域最大規模の天仲寺古墳など見所がたくさんあります。美しい花々と共に歴史を見つけにいきませんか？(レポーター/のりしおカラー)

豊前国を一望する 国見山自然観察

ここは火の口(ねのくち=求菩提山)から「龍ノ背」と呼ばれた尾根道にあたり、県道32号線が通る次郎坊峠の赤い跨橋まで山道を登ると求菩提領域に入ります。自然観察と史跡めぐりを同時に楽しむことができます。(レポーター/mulberry)



京築 春旅

春のお出かけノート

豊前市



よみがえる、求菩提山に 山伏の坊！に残る

かつて一山五百坊と言われた求菩提山に今も残る坊舎が二軒あります。一つは西谷にある「瀧蔵坊」です。平成12年(2000)まで人が住んでいました。平成30年(2018)所有者が豊前市に寄贈。「瀧蔵坊」は求菩提山史跡整備指導委員会の論議を経て、19世紀頃(江戸時代)の姿に戻され、ようやく整備工事が終わります。二つ目は既に保存されている杉谷の「岩屋坊」です。春の求菩提山をのんびり歩いて二つの史跡をめぐり、建物の方位や間取りの違いなどを見学し、貴重な古の修験道文化にふれてみてください。見学の際はご連絡ください。(レポーター/ヒメジャカ)
[問] 豊前市立埋蔵文化財センター [☎] 0979-82-5287



築上町

築上町の国見山(637m)の山麓の一部は、元来の植生が息づく一方、展望台が整備され、豊前の国を一望できる素晴らしい山です。龍城院キャンプ場から「ふれあいの森」登山道があり、左の階段を上ると500歩、右の遊歩道を登ると約2000歩で山頂に至ります。キャンプ場は現在閉鎖されていますが、国見山山麓の歩道は整備されており、「パノラマ展望広場」からは眺望が楽しめます。途中の龍城院集落には、棚田や螢スポットがあり癒される風景です。棚田の一番高い場所では、4月に柴燈護摩が行われています。



「トカイナカ」って なぁに？ 京都峠で体感！



苅田町のキャッチコピーは「トカイナカ」。都会+田舎を最も体感できる場所は、何と言っても京都峠。殿川ダムを右に県道64号線を白川方面へ向かうと見えてくるのが石灰石の採石場。ランドキャニオンを思わせるかのような荒々しく削り取られた岩肌は、セメントの町の礎を築いてきた証。



さらに進んで京都トンネルを抜けると、眼下に広がるのは絵に描いたようにのどかな田園風景。京都トンネルを境に、まさに「トカイナカ」のタイムトラベルを味わうことができます。京都峠展望台でゆったりと春のひとときを過ごしてみませんか？
*京都峠までのアクセス: 苅田町役場から車で15分、徒歩で80分
[問] 苅田町観光協会 [☎] 093-434-5560 (レポーター/ノウサギ)

行橋市

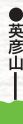


「神籠石」とは、山の中に、列石や土塁、石塁で囲いを作った遺跡のことで、行橋市は御所ヶ谷にその姿を見ることができます。



明治時代、久留米市高良山の高良大社を囲む列石を「神聖な土地を囲む神域」として神籠石を紹介したことから、他の地域でも類似した列石のある遺跡を神籠石と名付けました。しかし、戦後におこなわれた発掘調査によって、その列石が土塁の基礎であったことが判明し、現在では「山城」説が有力となっています。7世紀後半、中国の唐と朝鮮の新羅の連合軍による日本列島への侵攻対策として、九州に防人を配置し、水城を築き、その後、大野城、基肄城、金田城の3城が次々と作られました。神籠石もこの頃築かれたとする説が有力で、御所ヶ谷神籠石の発掘調査でもこの時期の壺が出土しています。「倭国」が「日本国」へと変革を遂げる時代に築かれた山城の跡。自然の中に佇む神籠石は、まるで飛鳥時代にタイムトリップしてしまったかのような異空間の迫力があり、一見の価値アリです。

(レポーター/若草物語)



コロナ禍も収まりきらない3度目の春、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」をご覧になっておられる方も多いのではないのでしょうか。

行橋の民話 「大橋太郎」と 鎌倉殿の13人

この物語は遠い鎌倉の話と思いきや、時空を超えて「鎌倉殿」につながる人物が、実は京築にもいました。行橋の民話として伝わる「大橋太郎」です。

「大橋太郎」といえば、「大橋」という地名の由来になった人として有名ですが、どんな民話が語り伝えられているのでしょうか。



むかし、鎌倉時代のはじめ。豊後の国に大橋太郎通貞^{みよたか}つちゆう侍がおつてのお。地頭として領民にとても慕われちよったち。ある時、太郎の元に、鎌倉の將軍様から呼び出しの書状が届いたそう。急ぎ太郎は妻と生まれたばかりの息子、一妙庵^{いちめうあん}を残し、鎌倉へ旅立ったち。鎌倉についた太郎は謀反の疑いで捕えられ、土牢に閉じ込められてしもつたんよ。太郎の帰りを待つ妻も、家屋

敷を追われ山中の小屋で一妙庵を育てちよった。
ある吹雪の晩のことじゃ、旅の僧が一晚の宿を乞いに訪ねてきたんよ。旅の僧に父の姿を重ねた一妙庵は、「お父様は、鎌倉の將軍の元に向いたまま、もう十年以上帰って来ませぬ。母と二人父の帰りを待つておるのです。」と太郎のことを話したんだと。すると旅の僧は、一妙庵に「法華経」を渡

し、「ただ誠の心を持って法華経を論じなさい。必ずや大願は成就されるでありましよう。」と慰めたち。その日から母と一妙庵は、毎日「法華経」を唱え、父の無事を祈り過したそう。

そして一妙庵が一二歳になると、母と二人で太郎の行方を探すために九州を飛び出し、神仏に祈りながら鎌倉まで辿り着いたち。この日は鶴岡八幡宮で、將軍頼朝が参列する祭りが行われちよった。頼朝が信仰する伊豆山の僧たちが「法華経」を唱えておつたのじゃ。その声に心動かされた一妙庵は声高々に法華経を唱和しはじめた。

澄んだその声の響きを聞いた頼朝は、「そなたの名はなんと申す。若き身でありながら、いかにして法華経を誦んじられたか。」と問うたち。

一妙庵は、父のことを頼朝に話すと、社前にわかに騒がしくなり、一人の罪人が警護の者に引き立てられてきたんよ。それは、大橋太郎じゃった。髪も髭も伸び瘦せ衰えていたが、母のそばに立つ一妙庵を見て、「この世で妻と息子に会えるとは夢にも思わず、喜びに耐えない。長く獄中において、この度七里ヶ浜にて死罪となりとも悔いなし」と語ったそう。



父の言葉を聞いた一妙庵は、「將軍様に申し出願いたいことあり。その上は、命召されるときも露厭わず」と述べて父の命乞いをしたそう。
一妙庵の勇氣に心奪われた頼朝は、「そなたの父の罪は古きことゆえ、今更、虚実は明らかにはできぬ。しかし、法華経を唱え神仏を拝みながら九州から訪ねくるは孝行なり。法華経の心を持って死罪を許す故、親子共々新たな住まいを定めるが良い。」と申し三十銭も持たせてくれたち。

太郎親子は東海道を下り、難波の港から大里を経て苅田の宿場を過ぎ、今井津まで歩く途中、長峽川の河口の小さな村にたどり着いたち。すると村人たちがやってきて、「旅の方々、どうぞ家が上がってお休みなされ。」と泊めてくれたそう。村人のあつたかさに癒された太郎親子は、村の人たちにお返ししようと、小さな家を建て商いを始めたち。

やがて、太郎親子を慕う人たちが豊後の国からも移り住み、賑やかな町になったち。これが「大橋」の商業の始まりちゅうことじゃ。おしまい



『行橋市史』によれば、中世の大橋は宇都宮氏の給地として、荘園の米を保管する倉敷であったという資料も残されています。明治になると洋学を学ぶ大橋洋学校、大正時代になると百三十銀行も建てられ、京築の文化の先進地でした。明治22年(1889)の合併により、大橋村は行事村、宮市村と合併し、行橋町となります。

下正路地区在住の岡田博利さんによれば、「大正の初め行橋町役場を造るために、「太郎の古塚」と呼んでいた場所を

掘削すると、刀剣や鏡などが出土した。地元の人たちは驚いて、太郎のものに違いないと喜び、大橋神社の境内に埋め大正14年(1925)『大橋太郎碑』ができたようです。」と語ります。大正7年(1918)に出版された「京都郡誌」には、豊橋柱^{とよはしはしら}という文書が紹介され、大橋太郎の物語が記されています。

ところで、現在は民話として語り伝えられている「大橋太郎」とは、如何なる人物だったのでしょうか。昭和7年(1932)に田中智学によって書かれた『史劇大橋太郎』という脚本集には、筑後守平通貞という名で「再び平家の世に為さんと密謀をめぐらし」と記されています。父の名は、平貞能。源平合戦の途中で出家し豊後の国に残ったという説もあるようです。太郎の出身には筑前、筑後、肥後と多説あるようです。

また、日蓮上人が残した遺文集『南條鈔』の一節には、「大橋太郎」や頼朝の他にも梶原景時^{はしかげ}らも登場します。鎌倉の光則寺の土牢には、太郎が捕えられていたと伝わる横穴も存在することから、実在した人物だったのではないのでしょうか。

田中智学は、法華経の研究者であり、日蓮の理想を文芸で伝える「国性文芸」を起こし、文学活動や演劇なども上演した人物だったようです。演劇として上演された「史劇 大橋太郎」の脚本では、「孝行の徳、法華経の徳。この二つの大きい徳には、頼朝も力及ばずして、遂に彼を許すことになったのぢや」と「鎌倉殿」に語らせています。行橋に伝わる親孝行の息子を待つ民話「大橋太郎」は、源平合戦の動乱の中で、人と人が憎み、争い、血を流し、そして祈り、許しあう壮大な物語でもあったのです。



▲旧百三十銀行 行橋支店



▲大橋太郎碑

春風に吹かれ、「大橋太郎碑」の向こうに見える鎌倉の風景を思いながら散策してはいかがでしょうか。

●参考文献
『ゆくはし歴史人物読本』2018 行橋市教育委員会
『京築風土記』2017 山内公二 幸文堂出版
『豊前路の民話と伝説』1980 宇都宮泰長編和出版
『行橋市史中巻』2006 行橋市史編集委員会
『史劇 大橋太郎』1932 国性文芸会
『WEB版日蓮宗辞典』田中智学と国性文芸